

紙コップ再資源化へタッグ

シンギと叡啓大

食品容器商社のシンギ（広島市中区）と叡啓大（同）は、使用済みの紙コップを回収し、段ボールの原紙などに再資源化する実証実験に取り組んでいる。同大発で初のベンチャー、一般社団法人サーキュラー・ラボ・広島（同）を3月に共同で設立。紙の使い捨て容器のリサイクルの事業化を目指す。（黒川雅弘）

3月下旬、商業施設のジ・アウトレット広島（佐伯区）のフードコートに、水飲み用の紙コップを回収する箱を五つ設置した。飲み残しがあったり、中にごみがあったりすると再利用しづらいため、紙コップだけを入れるよう呼びかけるチラシを回収箱に張った。実証期間の3カ月間で30万個の利用を見込み、うち3割の回収を目指す。

シンギは幅広い食品容器を扱う中、単一素材でリサイクルしやすい紙コップに着目。昨年、叡啓大の学生や教員と一緒に課題解決を目指すプロゲ

広島 フードコートに回収箱

ラムを始めた。学生のアイデアを継続して取り入れるためベンチャーを設立。ベンチャーの理事を務める、叡啓大産学官連携・研究推進センターの定基金教授と学生4人を交え、週1回のミーティングを重ねる。

リサイクルの事業化には回収や分別のコストなど課題もあるため、協賛企業も募る。使い捨て容器を回収する仕組みの構築や、紙コップ以外の容器の再資源化も目指す。

シンギ社員でサーキュラー・ラボ・広島の河村伸枝代表理事は「学生の柔軟なアイデアと行動力を取り入れ、事業として成立する紙コップのリサイクルの仕組みをつくる」と強調する。



①ジ・アウトレット広島のフードコートに設置している紙コップの回収箱（右端）

②捨てられた紙コップの状態を調べ、回収率を上げる方法話し合うサーキュラー・ラボ・広島のメンバー

